

八木節

【原曲】群馬県民謡
【採譜】千藤幸蔵

0/3

□□□

ハアゝ またも出ました

三角野郎が

四角四面の 櫓の上で

音頭取るとは 恐れながら

文句違いや 調子の狂い

さらりさらりと お許しなされ

ゆるしなされあ 文句にかかる

が オーイサネー 強者ばかり

オーイサネー

ここで名高き 国定忠治

国は上州 佐位郡さいごおりにて

親の名前を 忠兵衛と言つて

二番息子が 忠治でござる

生まれついで の 俠客肌で

音に聞えた 国定村の

人のためなら 喧嘩もなさる

二十五歳の 厄年なれば

すべて万事に 大事を取れと

丁度その頃

無宿(むしゃく)の頭

音に聞こえし 島村伊三

彼と争う その始まりは

かすり場所にて 三度も四度

虫を納めて 我慢をしたが

頃は牛年 七月二日

鎖かたびら 着込みを着し

草鞋脚半で 身軽の仕度

伊達の鉢巻 皆それぞれに

手勢すぐって 境の町で

様子うかがう 忍びの人数

それと知らずに 島村伊三

もっとこの先 読みたいけれど

上手で長い は またよけれども

下手で長い は 御座の邪魔よ

止めろ止めろの 声なきうちに

ここらあたりで 段切りまする

が オオイサネー

オオイサネー

八木節

【原曲】群馬県民謡
【採譜】千藤幸蔵

ハアゝ またも出ました

三角野郎が

四角四面の 櫓の上で

音頭取るとは 恐れながら

文句違いや 調子の狂い

さらにさらりと お許しなされ

ゆるしなされあ 文句にかかるが

オーイサネー

ここで名高き 国定忠治

国は上州 佐位郡(さいごおり)にて

親の名前を 忠兵衛と言つて

二番息子が 忠治でござる

生まれついで の 俠客肌で

音に聞えた 国定村の

人のためなら 喧嘩もなさる

八木節

【原曲】群馬県民謡
【採譜】千藤幸蔵

□■

二十五歳の 厄年なれば
すべて万事に 大事を取れと
丁度その頃

無宿(むしゃく)の頭

音に聞こえし 島村伊三
彼と争う その始まりは
かすり場所にて 三度も四度
虫を納めて 我慢をしたが

一の子分の 文三が聞かぬ
首をまつとの 引導舟を
腰にさしたる 商売なれば
飯の喰い上げ 捨ておかれんと
聞いて忠治が 小首をかざし
さらばこれから 喧嘩の用意
いずれ頼むと 強者ばかり

八木節

【原曲】群馬県民謡
【採譜】千藤幸蔵

■ ■ ■
頃は牛年 七月二日

鎖かたびら 着込みを着し
草鞋脚半で 身軽の仕度
伊達の鉢巻 皆それぞれに
手勢すぐって 境の町で
様子うかがう 忍びの人数
それと知らずに 島村伊三

もっとこの先 読みたいけれど
上手で長いは またよけれども
下手で長いは 御座の邪魔よ
止めろ止めろの 声なきうちに
ここらあたりで 段切りまするが
オオイサネー